

令和 2 年(2020 年) 3 月 11 日

保護者のみなさま

豊能町立東ときわ台小学校

校長 久保康子

学校評価報告書

—アンケート集計の結果と今後の取り組みについて—

春寒の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、学校教育活動改善等のため、昨年12月に、児童・保護者に対して、「児童の充実した学校生活」についてのアンケートを実施しました。その後、データを集計して分析作業を行い、改善の方向性をまとめるとともに、2月14日の学校協議会で各委員の方々からご意見をいただきました。

全体の集計結果をみると、ほとんどの項目において肯定的評価となっており、本校の教育活動に対して理解を得られている部分が多いと考えています。しかしながら、質問1「学校に行くのが楽しい」の肯定的意見が100%でないことに重きを置き、課題の見極めを行うとともに、“楽しいと思える学校づくり”にさらに力を入れていく所存です。また、設備・環境面や情報発信に関する点などについてのご意見は真摯に受け止め、改善に努めていきたいと思っております。

以下に、特徴的な項目について、学校側の「自己評価」「改善の方向性」及び学校協議会委員の方からの意見を「関係者評価」としてまとめ、お知らせいたします。また、集計結果の比較グラフと自由記述の集約も添付しておりますのであわせてご覧ください。

今年度は文部科学省委嘱研究開発校としてのまとめの年であり、保護者のみなさまにも多大なるご支援をいただきました。この研究を来年度以降にも生かし、これからも、「一人ひとりを大切にし、ともに学び・活動する喜びに満ちた学校」を目標に掲げていきたいと思っております。そして、「誰もがわかる授業」・「認め合い支え合う集団」を重点目標としながら、知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動を、保護者・地域の方々や関係機関との連携を大切にしながら進めてまいります。

今後ともご理解ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

互いに認め合い支え合い、人権を大切にする集団作り	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校はいじめやこどもの悩みに対応している」「先生は困ったときや悩んだ時に力になってくれる」の項目からは、教職員に対する信頼が高いことが伺える。 ・「学校に行くことが楽しい」と回答している児童が9割以上いるとはいえ、「学校が楽しいと思えない」児童もいる。その理由や背景をつかみ、丁寧に対応していく必要がある。 ・挨拶に関しては、肯定的評価の割合が高い。が、「ごめんなさい」「ありがとう」という言葉も含め、自分から進んで言える児童は多くない。 ・「他の学年との交流はいいことだ」の項目では、日々の縦割り活動や行事、特活『のびのび』等、多様な場での異学年交流があり、児童は肯定的な回答が多かった。 ・「学校は、一人ひとりの個性を大切にし、意欲や自信を持たせている」という項目では、教職員が児童のアセスメントをもとに一人ひとりの良さに目を向け、学級集団づくりに活かした結果が表れたと考える。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童の困り感や悩み、小さな変化などを見逃さず、「チーム」で早期発見・未然防止に努める。 ・普段から一人ひとりの児童への理解に努め、状況を教職員で共有して手立てを打つようにする。 ・児童会を中心とした挨拶運動を盛り上げ、自分から挨拶しようと思える子を増やす。また、児童朝会などで、生活目標の提示やソーシャルスキルトレーニングを行っていく中で、コミュニケーション力をつけさせていきたい。 ・各学年単学級である現状から、異学年交流は子どもたちにとって大切な活動である。さまざまな機会を通して、子どもたちが成果を感じられるような仕掛けや取組みを考えていきたい。 ・肯定的な言葉かけを意識し、一人ひとりのがんばりを学級集団に返していく。また、集団づくりのポイントや仕掛けについて研修を行い、共通理解の元、児童一人ひとりが安心できる集団作りをめざす。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方のきめ細やかな対応を保護者に理解されていることが、アンケート結果から分かる。今後も、児童が「楽しい」と思えるような学校づくりをぜひ続けてほしい。 ・異学年交流は良い取組みなので、今後もぜひ続けてほしい。 ・サポーターとして授業支援などでよく校内に入らせてもらうが、どの児童もていねいな挨拶をしてくれていると感じている。 ・挨拶やマナーなどは、家庭でもきちんと行っていくことが大切である。

確かな学力のために、基礎基本の確実な定着を図る	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目において、肯定的な回答の割合が高かった。 ・研究開発などで取り組んできた児童の実態に応じた手立てを講じた授業づくりの成果が表れた。 ・少人数での学習は、関係する教師が連携して取り組むことができた成果が数字に表れた。 ・地域や家庭が協力・連携してくれていることが結果となって表れていると考える。 ・基礎的学力の定着・活用を図り、様々な活動を通して学ぶことの楽しさやよりよい学習集団作りを今後も追究し、大切にしていかなければならない。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題に取り組むだけでなく、目的意識をもって、主体的に家庭学習に取り組む姿勢を育てる必要がある。具体的に自学習などの方法について提案していきたい。 ・継続して、日ごろから子どもの実態をふまえた授業づくりに取り組みたい。 ・学級集団づくりと連動させながら、安心して学べる学習集団を形成していく。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題に関しては、漢字・計算など、毎日しっかりと考えられ、バランスよく出されているように思う。 ・「授業がよく分かる」との評価が高いのはすばらしい。先生方の日頃からの工夫努力がよく分かる。 ・今年度は「少人数グループや数人の先生といっしょに学ぶとわかりやすい」について児童の評価が大変良い。ぜひ今の指導体制を今後も続けていただきたい。 ・「まなび舎」のように、学校で学習の時間が確保されているのは、宿題をする習慣もついて、非常にありがたい。
日常生活を通して、健康への関心と態度を育成する	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事に目標を持って取り組んでいる」という項目では、肯定的評価（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）の割合は前年度と比べて大きく変化はないが、「そう思う」の割合は前年度と比較して、児童6%増、保護者18%増となっており、多くの児童が目標を持って行事に取り組んでいると考えられる。 ・外遊びをしている児童と、そうでない児童が明確に分かれている。外遊びをしていない児童は、教室で友だちと話したり、図書室で読書活動をしたりしている。クラス遊び以外で自主的に外に出る児童は多くない。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりが意識して児童に目標を持たせながら行事や学校内の諸活動に取り組むようにする。 ・児童会や体育委員会など、児童とともに運動の機会を増やす方法考え、働きかけていきたい。 ・体を動かす喜びを感じられるように教職員も子どもたちと運動する機会を持つよう意識する。

関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今の子どもたちは、学校以外で「体を動かす時間」を持つことが非常に難しくなってきている。放課後に遊べるような場所の提供（校庭開放など）を、積極的に行っていく必要がある。 ・秋に行った青少年育成協議会主催の「みんなであそぼう」では、たくさんの児童や先生方の参加で盛り上がった。学校内の活動だけでなく、地域行事なども生かして、子どもの体力向上に役立てる方法を考えてはどうだろうか。
地域に学び、保護者や地域との連携につとめる（学校経営に関して）	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりや集団づくりに関しては、高い評価を得ており、研究開発校として日々研鑽を重ねてきたことが生きていると考える。教職員一丸となって日々授業改善に取り組んできた成果であると自負している。 ・設備面ではエアコンが設置されたこともあり、アンケート評価も大幅に改善された。しかし施設の老朽化に対する改善を求める意見は、依然として多い。 ・今年度より緊急災害時のマニュアルをよりわかりやすくするために全面改訂を行った。保護者からも、昨年度より多くの肯定的評価を得ることができた。 ・保護者や地域ボランティアの登下校の見守りは、毎年高く評価されている。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりなど教職員の研修の様子も、保護者や地域の方々に発信していくようにする。 ・エアコンは設置されたが、すべての学習教室にまではいたっていない。また、雨漏りなど以前から改善されていない部分も多い。これらをふまえ、引き続き町に改善要望を出していく。 ・HPのリニューアルを行い、より見やすいものへと改善した。毎月の学校だよりに加え、行事や子どもたちの活動の様子も更新するようにしている。 ・緊急災害時のマニュアルに関しては、今後も課題点を整理しながら、毎年更新していきたい。また、緊急時対応については、HPでも周知できるように検討する。 ・昨年度より警報等は少なかったが、大災害により、学校⇄保護者の通信が途絶えたとしても、安全を確保できるシステムを構築していく必要がある。 ・授業やクラブ支援、校内や花壇の整備等、多くの場面でボランティアの方々に協力いただいている。今後もHP等を活用しながら、本校の取り組みを、より広く知らせていきたい。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・未設置教室へのエアコン提供など、学校の設備に関しては、地域からも積極的に行政へ要望していきたい。 ・学校支援に関わっているサポーターさんから「子どもたちから毎回元気をもらえる。」との感想をよく聞いている。今後も、サポーターをうまく活用するとともに、地域とのつながりをぜひ続けてほしい。 ・児童が減っていき少人数集計となっていく中でも、アンケート全般にわたり、多数の肯定評価を維持していることはすばらしいと思う。